



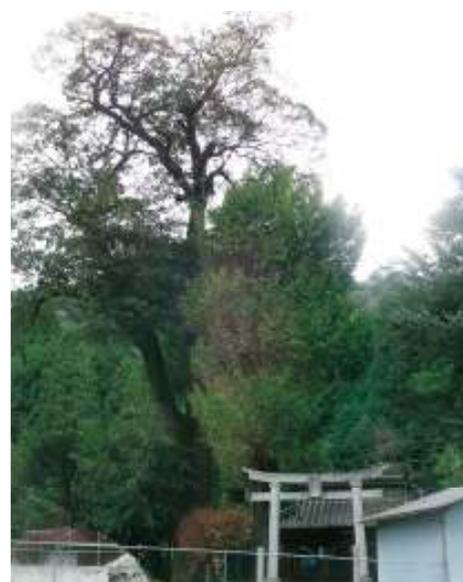
# 宮野 みやの

## 江戸時代は広島藩の直轄地 用水路完成により稲作始まる



宮野地区の集落 太田川沿いに集落が形成されている。川は集落の先端付近で山側がえぐられて大きく蛇行している。太田川が運んできた沖積台地で、川では昔からアユ漁が盛んで、住民の収入源の一つとなっていたが、近年は水量減少とともにさびれている

宮野は太田川右岸に位置し、30戸ほどの小さな集落です。江戸時代は広島藩の直轄地で蔵入地（年貢を直接、藩へ納める地）とされていました。元和6（1620）年、福島正則の時に村を「蔵入」「明知」「給地」に区分したことに始まります。なぜ、この小さな集落が蔵入地とされたのか明確なことは不明ですが、推測すれば、集落の東側を流れる太田川で落ちアユを取る藩直営の築が上流の毛木と交代で設置されていたためではないかと考えられます。築が設置されたため、3〜9月は禁漁とされ、



創建以来の鎮守の大エノキ  
樹齢約480年は県下2位

### 1 宮野八幡神社と大エノキ

みやのはちまんじんじゃとおおえのき  
河野道忠により弘治3（1557）年に創建されたもので、現在でも春と秋にお祭りが行われている。神社の境内に樹齢約480年で県下第2位と言われる大エノキがある。この付近の自然植生が残されたものと思われ、市指定の天然記念物となっている。樹高30m、幹周4.2m。

冬から春までのわずかな期間だけ雑魚を取って生計の助けとしていました。その頃は、まだ水田もなく、畑で麦、あわなどを作り、楮紙（和紙）や竹器の製造や川からの収入が貴重なものであったと思われる。この地域は川が近くにありながら水田を作ることが出来ず、畑作中心であったが、大正5（1916）年に時の部落会長であった林四郎氏の尽力により、後山川からの用水路が完成し、念願の米作りが行われるようになった。



# 宮野 みやの



私財を投じ用水路を完成  
功績を称える記念碑

## 3 灌漑記念碑

2年の歳月をかけた用水路の完成に私財を投じ、地域のために尽力された当時の部落会長の林四郎氏の功績を称え、完成を記念して大正5(1916)年に建立された。

## 用水路開通で念願の米作り 地区住民が交代で維持管理

## 4 宮野用水路

後山川から取水された水は1.8km隔てた灌漑記念碑のすぐ近くまでコンクリートの水路で導かれている。

この水路の維持管理には年間通して地区住民が交代で務めている。

取水口は後山川の下流域である松尾産業の下あたりで、県道からもよく見える場所にある。



地区にひとつの集会所  
子どもたちの遊び場にも

## 2 宮野集会所

地区唯一の集会施設で県道177号線沿いにある。元、林四郎氏宅を利用した公会堂から集会所へと所管替えとなり現在に至っている。公園も兼ねている。◎あり



宮野用水の取水口



宮野用水の出口